

平成31年度学校自己評価システムシート (県立小鹿野高等学校)

N08

目指す学校像	総合学科高校として、生徒の「学力・人間力・思いやり・創造性」をはぐくむ、地域に愛され、期待に応える学校
--------	---

重点目標	1 基礎から発展まで確かな学力の育成 2 総合学科の特色を生かしたキャリア教育の充実と進路実現 3 規範意識の醸成と規律ある生活習慣の確立 4 生徒の人間力を高めるための地域連携と開かれた学校づくりの推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	13名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 1 2 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<p>【現状】 授業規律及び学習環境は維持できている。一方で、学習面で課題を抱えた生徒がおり、きめ細かな対応が求められている。</p> <p>【課題】 ・基礎学力向上のための授業改善及び研修会の充実 ・学習面でのつまずきの解消</p>	社会に開かれた教育課程を踏まえた、基礎学力及び学習意欲の向上	①整理整頓の指導徹底(学年・教科等) ②社会人として必要不可欠な基礎学力育成に向けたマンデー・レッスン・スキルアップトレーニングの実施(進指部・学年等) ③少人数制を生かした個別指導(教科) ④学校運営協議会の意見や次期指導要領の内容を共有及び活用(全体)	①「びかーぐら」表彰毎月実施 ②各講座への出席率(%) ③授業アンケートの満足度 85% ④共有した回数	<p>「基礎学力がつく授業が行われた」と回答した生徒が 87%であった(前年度比 6.5ポイント増)</p> ①保健委員が各クラスの美化状況を年 10 回採点・表彰。 ②国・数・英・公務員・メディアアプリの講座をのべ 17 回実施。出席率 97%、「受講して良かった」の生徒回答 87%。 ③少人数数学級編成を行い各教科で少人数授業を展開。1 年英数は、更に週 1 時間クラスを半分にして展開。「少人数授業により授業内容が分かりやすくなった」の生徒回答は 85%(2.5ポイント増)。 ④職員会議等で議事録により 6 回共有。教育課程委員会を 13 回実施し、系列の見直しを含め新教育課程を検討。	A
2	<p>【現状】 生徒の進路希望は多様であり、個に応じた指導が求められている。</p> <p>【課題】 ・自らのキャリアについて興味関心を持ち、適性を知り、その能力を伸長する。 ・進路指導における生徒・保護者のニーズの把握</p>	総合学科教育課程を生かしたキャリア教育により進路意識を向上させる	①適切な進路・科目選択に向け総合学科の核「産業社会と人間」を実施(1 学年) ②組織間で情報共有を密に行い、進路ガイダンス等の進路行事を連携して実施(進指部・学年) ③自立支援事業を活用した SST の実施(1 学年) ④進路講演会の工夫実施(進指部等)	①生徒アンケート満足度 ②生徒保護者アンケート満足度 ③実施回数 3 回 ④生徒アンケート満足度	<p>概ね生徒の進路選択意識を高めている(79% 前年度比 3ポイント減)</p> ①郡市内 27 事業所で 1 年全員がインターシップを実施。「産社は卒業後の進路を考えるものになっている」の生徒回答は 90%。 ②上級学校バス見学会(6/15 駿河台大等, 10/23 立正大等・希望者)、進路説明会(5/17・3 年)、進路ガイダンス(7, 11, 1, ・2 年)。「計画的な進路指導が行われている」の生徒回答は 86%。 ③キャリアマネジメント講座(12/4)、コミュニケーション練習(2/19)2 回 ④同分野の学校等を聞き分ける 2 年進路説明会を設定。5 月の保護者進路説明会を前倒し実施。「進路行事は興味が湧く内容で実施している」の生徒回答が 71%。	B
3	<p>【現状】 小規模校のメリットを生かし、教職員は意欲的に情報共有して、個々の特性・状況に応じた指導を行っている。一方で、遅刻者数については昨年度増加。</p> <p>【課題】 ・地域の人材を活用した教育相談体制の強化 ・基本的生活習慣の改善</p>	主体的に規律を守る態度・意識を育成する	①チャイム to チャイムの授業を実施(全体) ②手帳を活用したタイムマネジメントの指導(学年等) ③特別支援教育推進事業を活用し SC や巡回支援員等と密に連携した教育相談体制を構築(教相委・学年等) ④警察署等と連携した登校指導バイク指導等(生指部)	①生徒アンケート結果 ②手帳の使用率 ③生徒保護者アンケート満足度 75%(教育相談体制) ④合同実施回数 7 回以上	<p>概ね時間を守る態度や意識が育成されている</p> ①「チャイム着席等時間を守ることができた」の生徒回答が 79%。 ②「手帳の活用ができた」の生徒回答が 45%。全クラスで指導し、振り返りとしても活用。 ③「信頼関係に基づく生徒指導が行われる」の生徒回答が 69%。SC はのべ 21 日休校職員は 9 日訪問し、生徒のべ 40 名以上の生徒、保護者のべ 5 名以上、教員のべ 20 名以上と面談。 ④警察合同登校指導 4 回、バイク講習会 2 回(5, 9 月)実施。交通安全教室 GW 前倒し実施(4 月)。	B
4	<p>【現状】 今年度コミュニティ・スクールとなり、地域との協働による教育活動を促進できる体制が整えられた。</p> <p>【課題】 ・学校や地域にとって WIN-WIN な活動が実現できるよう、互いの課題や目標等を十分に共有する。 ・学校の課題や取組等の情報が保護者や地域に確実に届くよう、情報発信の方法について工夫改善する。</p>	コミュニティ・スクールとして、地域との連携を強化し、生徒の成長につながる取組を推進する	①社会性の育成に向けボランティア活動等、地域活動への積極的な参加を促す(学年等) ②地域貢献として小鹿野未来塾、公開講座等を実施し本校理解を促す(教科等) ③学校運営協議会と連携した教育活動の実施(評運委) ④HP の積極的な更新、広報誌発行、全職員による中学校訪問の実施(教務部等)	①地域活動の参加取組 ②参加者アンケート満足度 ③改善更新した取組数 ④HP 日誌掲載回数	<p>町との包括連携協定や魅力化プロジェクト等を通して生徒の成長の場が増えた</p> ①地域連携事業をのべ 104 以上、ボランティア活動はのべ 19 回以上実施。 ②小鹿野未来塾に国教英理でのべ 19 日協力。公開講座を夏季 10 企画、冬季 7 企画で実施。 ③町行政等と行う竹あかりプロジェクトなど魅力化プロジェクトの実施。 ④HP 鹿高日誌 163 回更新など各ページを頻繁に更新。わらじか新聞 3 回、学校だより 8 回、CS 通信 2 回発行。郡市内全中学校への訪問、中学校等で 18 回学校説明会を実施	A

学校関係者評価	
実施日	令和 2 年 3 月 1 7 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・学力は社会に出てからも大切であるから、もっと勉強するような指導をお願いしたい。 ・小鹿野の小中学校では「ふるさと学習」を実施している。小学校の上に中学校があり、更にそれを高校まで持ち上げて、地元愛につながればよいと思う。 ・中学生やその保護者は、高校の進路状況に注目するので積極的に情報発信して、成果を見せてほしい。 ・1 年のインターシップは良い取組であるが、インターシップと進路意識への関連があるのか検証できると良い。 ・製造業が減り、観光業で働くことが増えるだろう。地域との取組の経験がいつか生きるだろう。 ・山村留学生の 3 年間の成長ぶりは大きく、卒業時は二回も精神的体力的に成長している。宿舎職員も自信や刺激をもらおう。常連客との交流もあり生徒を応援している。山村留学に関しては、施設や予算だけでなく、受入先の補助など、ソフト面の働きかけがあつてこそコミュニティ・スクールではないか。 ・竹あかりの取組が光り輝き、地域が盛り上がった。今後、観光業の人材が不足すると思われるので、この経験が生きる生徒もいるだろう。 ・高校は、地域と連携を更に深めて継続してほしい。 ・小鹿野町の小中学校で行う総学では郷土愛を育む「ふるさと学習」を行っている。高校では、その延長として小鹿野学の編纂に取り組むなど、高められたら良いと思う。 	